

学生と教員で作る文理融合リベラルアーツFD公開フォーラム

文理融合リベラルアーツ科目を担当して

— 担当教員による「系列として目指すもの」 —

「ジェンダー」系列

竹村 和子 (人間文化創成科学研究科 文化科学系)



皆さん、こんにちは。「ジェンダー」系の説明をさせていただく竹村和子と申します。



「ジェンダー」系は、やはり一つの系列として完成するように構築しました。その理由は、「ジェンダー」系を受講する皆さんに対して一つの期待をしているからです。それは、「あなたが変わってほしい」。今まで考えていたことをさらにもっと違う見地で物を見てほしい。それから、「あなたから変わってほしい」。そこで得た知識をいろいろなことに、学問でも、あるいは就職した先でも活用してほしいと思っています。

先ほど、鶴澤さんが名前を変えた方がいいのではないと思われるほど、ジェンダーという言葉はもう人口に膾炙しています。でも、だからと言ってジェンダー平等が達成され

ているわけではありません。私が以前授業で、アメリカのノーベル賞をもらったトニ・モリスンという人の話を学生と読んだときに、それは性差別の大変つらい話ですが、でも、「私たちはこんな性差別のない日本に住んで本当によかった」という学生がいたので。学生は、日本には性差別がないと思っていたのですね。

けれども実はジェンダーというのは非常に無意識化されていて、私たち日本社会は決してジェンダー抑圧とか差別から無縁ではないということをお話したいと思います。

人間開発報告書という、これは去年のものですが、最初の HDI(人間開発指数)というのは、平均寿命や識字率、教育程度、一人当たり GDP です。これは日本は 10 位と高いわけです。識字率が高いので。ところが、これにジェンダーという変数を加えて黄色い方に行くと、途端に 14 位と低くなっていきます。さらに、ジェンダー・エンパワーメント、これは国会議員の数や企業の社長の数とか、専門職の人の数ですが、この指数は何と 101 位です。先進国の中で非常に低い数字です。

| | HDI | GDI | GEM |
|-----|---------|---------|---------|
| 1 | アイスランド | アイスランド | ノルウェイ |
| 2 | ノルウェイ | オーストラリア | スウェーデン |
| 3 | オーストラリア | ノルウェイ | フィンランド |
| 10 | 日本 | | |
| 14 | | 日本 | |
| 101 | | | 日本 |
| | (162カ国) | (155カ国) | (109カ国) |

何でこんなことが起こったかという、1949 年に既にボーヴォワールが「人は女に生まれえない、女になるのだ」と言っていますが、この「なる」というところが重要です。私たちが抱えている性についての問題は、生物学的な男女の性差に帰因しているものではなく、ジェンダー、つまり社会的に期待されるような男や女に「なっていく」ことに帰因しているのです。つまり、私たちが持っている問題の多くは、生物学的性差から離れたところに出現している問題です。



それは、まず社会。この社会は、Patriarchy という父権制度によって成り立っていると私たちは解釈します。そして、この社会と相互的な関係を持つのが考え方のありようで、それを、Phallogocentrism、男根ロゴス中心主義といいますが、各学問分野でこの男根ロゴス中心主義が行き渡ってしまっています。鶴澤さんが皆さんに配ってくれたプリントの「ジェンダーにかかわるテーマの例」で、芸術から植物学、脳科学、文化人類学、あらゆるものを書いてくれましたが、まさにそのとおりです。無意識のうちに学問的欠陥性と標榜されているものの中に、近代のジェンダーバイアスが深く、また広く刻まれています。これらはすべて知というものをつかさどり、これは Heterosexism(異性愛主義)、Sexism(性差別)、の二つが車の両輪となって稼働しています。この組み換えを私たちはどのように行えるか、それを大学の場で学ぼうとしているのが、「ジェンダー」系列です。



この「ジェンダー」系列、Gender Studies で私たちが用意したのは四つです。「政治経済と人間」「文化メディア」「グローバル化」「テクノロジー」。この四つは、先ほど言いましたように系列として不可分にかかわっていますので、できれば系列で取ってほしいと思います。



まず、「政治経済と人間」はどういうことをやるかということの説明します。「政治経済と人間」では「政策とジェンダー」「ケア・エコノミーとジェンダー」「政治とジェンダー」、そして演習では「福祉・エコノミーとジェンダー」という四つの科目をそろえています。

それぞれ、例えば政策だと、DV防止法、ストーカー規制法を例に挙げると、これまで単なる私的な関係と思われたことに、法律が性暴力として認知したのです。そのほか最近では、今、民主党がやれるかどうか大変意欲を燃やしているものですが、選択的夫婦別姓の制度です。これは民法の一部改正を含みます。このように、私たちの認識を変えるには法制度の改編が必要ですが、それがどういうふうになってきたかということ。あるいは子育てや介護というケアがどういうふうにならされてきたか、といったことを学びます。

ハイチでは地震がありました。神戸の地震のときでも、地震の災害は男女平等に災害が降りかかるわけではないのです。女の人の場合はトイレやいろいろなことで、また違う形の救助、あるいは援助が必要です。そういうことから「政治経済と人間」という、社会の枠組みの中でどのようなジェンダーバイアスがかかっているかということも学びます。

次に「文化メディア」は、「映画とセクシュアリティ」「アートとジェンダー」、そして「文化メディアとジェンダー」が演習です。



女はミュージアムにいつも裸で入っている、裸婦がよく描かれています。美術の巨匠や天才といわれるものの作品に、どういふふうにならジェンダーが刻まれているか。視覚というのは欲望がそのまま表象されて、生産される場所ですから、そういう視覚表象からの検証。

それから、映画、とくにハリウッド映画は、「理想的」な男と女を清算し、返えず刃で、同性愛を抑圧しました。そのメカニズムを探ります。友情とエロスの差はどこにあるのか、一体差はあるのか、ということも。

あるいは先ほど、菅先生の演習は大変面白かったとおっしゃっていましたが、マンガとか、J-POPの歌詞とか、ライトノベルに出てくるジェンダー構造の分析をします。

次に「グローバル化」については、「宗教文化とジェンダー」「グローバル化/ローカル性とジェンダー」、そして演習では「開発・社会変動とジェンダー」という科目を用意しています。



これで行うことは、発表して下さった方もいましたが、例えばジェンダーの在り方というのは個々地域によってさまざまに異なります。それがグローバル化の波によってどのように変わっているのか、あるいは変わらないのかといったこと。

また、その一つの大きな特徴として最近意識されるのは、イスラムの女性のベールです。イスラムの、ムスリムの女性のベールは「遅れた」というような符号が付けられています。実際にその宗教文化の中でベールはどういう役割を果たしているかということも学びます。



次に「テクノロジーとジェンダー」です。この部分が、文理融合の理の部分ですが、「テクノロジーサイエンスのジェンダー・ポリティクス」「生殖テクノロジーとジェンダー」、そして「テクノロジーとジェンダー」という演習です。

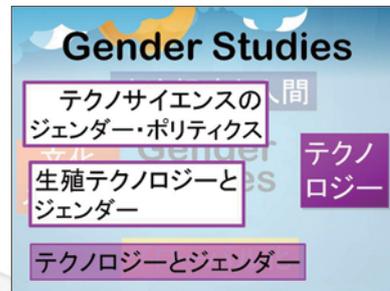
これらが具体的にどういうことをやっているかということ、妊娠したときの男女の生み分けとか、妊娠前の医学的な診断とか出産前検査、そういうときにジェンダーという視点が、妊娠という古くからある人間の営々と再生産されている事柄にテクノロジーがどういふふうに関与しているか。あるいはまた、今の IT というのはジェンダーと無関係のように思



われるかもしれませんが、例えばグーグルだといろいろなところで、前もってある単語をオミットすることができます。だから、ジェンダー関連の単語が右翼的な操作によって、どのようにグーグルの画面上に散らばらせることができるかというような、現代の新しい IT 産業、あるいは IT 背景、コンテンツの中で展開しているジェンダー・パワーポリティクスのようなものをここで学びます。

また、戦後、日本もさまざまな家電、あるいは生理用品とか、いろいろなテクノロジーが開発されていきました。そういうものは一見して産業の部分で解釈されがちですが、そこにジェンダーバイアスがどういふふうにかかっているかということをお学びます。

このような授業構成ですが、実はお茶大はジェンダーに対して大変力を入れていて、豊富なリソースを持っています。この前のコアクラスターのときにジェンダー系列がありましたが、この LA はコアクラスターを発展的にさらに大きく展開したものです。そのときには田嶋陽子さんが講演に来てくださいました。それは COE というものと提携したのですが、COE のいろいろな催しもありましたし、ジェンダー研究センターの活動もあります。例えば湯浅年子の 100 年記念祭は、科学とジェンダーの結節点です。それから、今年の 2 月 6 日には福島瑞穂さんと呼んで、政策と政治とジェンダーという大きな会合が開かれます。また、今日の 4 時 30 分から、本館 1 階でバングラデシュの女性の在り方という映画の上映があります。このようなたくさんのリソース、あるいはいろいろなインスティテュートやプロジェクトと交錯した形で授業が進められています。

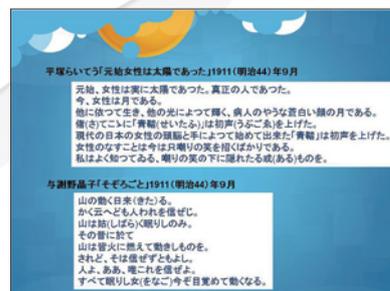


あと、今まで古くからいろいろな形でジェンダーについて語られてきたことを、少し書き抜いてきました。

そして、皆さんがよく知っている日本国憲法第 3 条第 1 項に、「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない」と。これは私たちの大学が真にリベラルな人間をつくり出すために大変重要なものです。これが高々と憲法によってうたわれているにもかかわらず、それが獲得されていません。

また、これは女性差別撤廃条約ですが、日本はこれに署名して、その後、雇用機会均等法ができて、それが男女共同参画基本法になりましたが、この第 1 条にも、女性の差別はあってはいけないと書いています。ただ、これは議定書に調印しなければいけなくて、日本は議定書には調印していません。世界の中で議定書に調印していない国は二つ、日本とアメリカです。アメリカは、オバマ大統領が選挙のときからそれを公約しましたが、確かまだ実現されていないと思います。

このように、私たちが生きているこの社会、日本及び世界の中で、どういふふうに私たちが新しい人間の在り方、自分たちの在り方を構築していくかという、そんな大きな志を持って、授業を取っていただきたいと思っています。



あと、どういふふうに新しいジェンダー研究が成り立っているかということの、ちょっとした偉業を入れてきました。これらは授業の中でということ。

ジュディス・ハワード「ジェンダー・トラブル」(1990年)



人は女に生まれ、女になるというポワワールの主張に何か正しいものがあるとするは、次に考えられることは、あたりのが何もかも進行中の言葉であり、なったり、作られたりするものであって、始まったとか終わったというは適切な言葉ではないというところである。現在進行中の言葉実践として、それは介入や意味づけなおしに向かつて開かれている。……ジェンダーは、身体を引かれし様式としていくことであり、きわめて厳密な規制的特徴のみなでくりかえされる一連の行為であって、その行為は、長い年月のあいだに開いて、身体とが自然な存在という見せかけを生み出している。

イヴ・K・セジウィック「クローゼットの認識論」(1990年)



男たちが、衣箱とか、辞書関係とか、娯楽や文の環境とか、官能的な関係とか、女をかくる争いといった、社会から求められる男性士の間接的表現がほとんど、このホモソーシャルな欲望のただかみに出現する。男と男に満ちた操縦—自己承認した流砂—のなかに囚われていく。そのとき男たちは、成人男性としての社会的責務を帯びながら、その代償として、永久に続く不安に巻き込まれる。すなわち、なにかが後進したこの社会的進歩は、すでにあらかじめ閉じられているのではないという不安である。男は自分自身のホモセクシャリティに恐怖を持ちはじめ。

ミシェル・フーコー「性の歴史」——知への意志(1976年)



生に対する権力は、二つの主要な形態において発展してきた。その一つは、身体の規律。身体を適性化させること。身体の有用性と従順さを平行的に増大させること。効果的で経済的な管理システムに身体を組み込むこと。こういったことすべてを確保するために、規律的特徴をもつ権力操作、すなわち人々の個別・政治学が働かされていった。

第二の権力は、種である身体。生の力学にゆめ上げられ、生物学的プロセスの土台となった身体に焦点を当て、繁殖・誕生・死亡率・健康の水準・寿命・長寿、そしてこれらに責任を負うすべての条件に基づいて、一連の介入と、規制的管理をこなす。人口の生態学である。

身体に關わる規律と、人口の調整とは、生に対する権力の組織化が關する二つの種である。この二つの種をもつ巨大なテクノロジーが種をすることによって、権力は、その機能が、もはや既することではなく、(生を)取り込むことになったのである。

最後にたくさんの学外リソース、そして国際的リソース。皆さんがこれから起業に就職しよう、あるいは役所、政府に週9区しよう、あるいはNGO、NPOに就職しようとも、ジェンダーという概念、その切り口は大変重要です。公的・指摘、また国内・国際リソース、多様な人たちとともに平等な社会を作っていくために、ジェンダーの基礎知識をリベラルアーツとして培ってほしいと思っているのが、私たちの「ジェンダー」系列です。

政治経済と人間

文化メディア Gender Studies テクノロジー

グローバル化

これで発表を終わります。ありがとうございました。

文理融合
リベラルアーツ
@お茶の水女子大学

Thanks.

あなたが、変わろう
あなたから、変えよう
ジェンダー系

学外リソース

- 内閣府男女共同参画局
- 国立社会保障・人口問題研究所
- 国際協力機構 (JICA)
- 国際協力銀行 (JBIC)
- スウェーデン 国立女性教育会館
- 東京ウィメンズプラザ
- (財団法人)アジア女性交流・研究フォーラム
- (財団法人)女性と仕事の未来館 等

国際リソース

Division for the Advancement of Women, UN
Gender Equality, International Labor Organization
United Nations International Research & Training for the Advancement of Women
Gender Equality, UN Children's Fund (UNICEF)
Women, Office of the UN High Commissioner for Human Rights
Gender and Development, Asian Development Bank
Gender, World Bank, etc.

お茶の水女子大学
Ochanomizu University